第 63 回 豊田佐吉翁顕彰祭 豊田家あいさつ

本日は、私の曽祖父・豊田佐吉の顕彰祭にお招きいただき、誠にありがとうございます。

本年も、この顕彰祭を執り行っていただき、田内浩之市長をはじめ、湖西市役所、市民の皆様に大変感謝をしております。

また、鷲津中学校の皆様には、佐吉の胸像を日々大切にお手入れいただきまして、心より御礼申し上げます。

今年は、佐吉が「豊田自動織機製作所」を設立して 100 年という節目の年です。

生涯をかけて発明した自動織機を普及させ「日本を豊かにしよう」と興した会社が、トヨタグループの源流となりました。アイデアを形にするだけで終わらせない。
たくさんの人に喜んでもらって初めて、社会の役に立てる。

この佐吉の想いは、「幸せの量産」というトヨタのミッションとして私たちの心に生き続けております。

そんな佐吉の生き方を象徴するのが「障子を開けてみよ、外は広いぞ」という言葉です。

「外の世界へ挑戦しよう」という意味で知られていますが、私にはもう一つ大切なメッセージが込められている気がしてなりません。

「外に向かって、心を開こう」。今を生きる私たちに、佐吉がそう語りかけているように思えるのです。

どれだけ優れた技術や発明も、自分の中に閉じ込めていては、誰も幸せにすることはできません。

自ら心を開き、人の知恵に学び、力を借りる。「心の障子を開く」姿勢があったからこそ、佐吉の発明は世界に広がったのだと思います。

今日、佐吉の精神をまっすぐに受け継がれているのが「豊田佐吉翁記念奨学金・奨学生」、そして、「湖西少年少女発明クラブ」の皆さんです。

中でも、発明クラブは今年 50 周年を迎えられました。本当におめでとうございます。

学問においても、モノづくりにおいても、失敗したり、思い通りにいかなかったりすることは少なくないと思います。

でも、一人で悩む必要はありません。仲間のアイデアを「すごい」と認め合い、お互いに助け合う。どうか、自分から心を開いてみてください。

そうしてつながった仲間とともに、新しいことに挑戦する。その一歩一歩が、誰かを笑顔にする未来につながっていくはずです。

私の父・章一郎は、ひたむきに挑戦し、成長する皆さんの姿を、いつも本当に楽しみにしておりました。そんな父に代わり、今年もこの言葉を贈ります。

「新しいものをつくるために知恵を絞り、汗をかき、時間を忘れて熱中する。
その瞬間が極めて楽しい。
苦心した末にものができあがったとき、それを誰かが使って喜んだり、助かったりしたとき、この上ない喜びと感動に包まれる。
だからもっと勉強し、働いて、もっといいものをつくろうと思う」

この父の言葉を胸に、私自身、「心の障子」を開き、仲間と手を携えて、もっといいクルマをつくる。

その決意を佐吉の胸像の前でお誓い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

令和 8 年 10 月 30 日

豊田 章男